

NEW SLETTER NO.32

Organic Geochemistry

有機地球化学研究会 2000.8.25

第18回有機地球化学シンポジウム
南大沢シンポジウム II) 開催される

有機地球化学研究会第18回シンポジウム(南大沢シンポジウム II)は、7月27日~28日の2日間、東京都立大学の奈良岡浩氏のお世話で東京都立大学国際交流会館を会場に開催された。全国から76名の方々が参加され、快適な会場で31件もの熱のこもった講演がなされた。お世話くださった奈良岡浩さんに、この場を借りてあらためて御礼申し上げます。

東京都立大学国際交流会館前において(2000.7.27)

第18回有機地球化学シンポジウム (南大沢シンポジウム II) プログラム

<7月27日(木)講演・ポスター発表・懇親会>

講演題目, 発表者氏名(所属, ○は講演者)

1. 東アジア地域エアロゾル中の脂肪酸および低分子ジカルボン酸の特徴

- 松本桂一・矢島一樹・渡会澄子・○森永茂生（桐蔭横浜大工）
2. PAHs の光分解における炭素同位体分別
○奥田知明・高田秀重（農工大農），奈良岡浩（都立大理）
 3. ESI/MS による好熱好酸性古細菌 *Sulfolobus sp.* の全脂質分析
○村江達士・村岡亮平・遠藤賢志（九大理地球惑星）
 4. 褐色腐朽菌 *Laetiporus Sulphueus* によるリグニン生分解における分解指標の検討ー アルカール酸化分解法とNMRー
○藤加珠子・北島富美雄・村江達士（九大理地球惑星）
 5. ゲル浸透クロマトグラフィによるバイオマーカーの分離と分子レベル炭素同位体比の測定
○稲場土誌典（帝国石油），鈴木徳行（北大理地球惑星）
 6. 炭素質物質のグラファイト化からみた CM コンドライトの熱変成
○北島富美雄・中村智樹・高岡宣雄・村江達士（九大理地球惑星）
 7. 尿素ー ジカルボン酸からのオリゴマー生成と粘土鉱物の役割
○寺崎正紀・下山晃（筑波大・化学）
 8. 美濃帯初期トリアス紀海成黒色頁岩中のバイオマーカー
○吉田拓也・鈴木徳行（北大理地球惑星），川上紳一（岐阜大）
 9. K/T 境界堆積岩中のチオフェン類の分布特徴とその考察
○勝又英之・下山晃（筑波大化学）
 10. K/T 境界堆積岩中のクロロフィル由来マレイン酸の分布とその考察
○小園正樹・下山晃（筑波大化学）
 11. 古第三紀／新第三紀境界期珪質頁岩中のバクテリアバイオマーカー
○仲條智宣（北大理地球惑星），川田洋平（横浜市役所），鈴木徳行（北大理 地球惑星）

<7月28日(金)講演・総会>

12. 磐梯五色沼毘沙門沼における有機地球化学
○依田新・柴野香織・滝口芳哉・福島和夫（信大理物循）
13. 三陸沖堆積物中のバイオマーカー組成
○古宮正利（地質調査所），奈良岡浩・石渡良志（都立大理）
14. ステージ5(約14ー 7万年前)におけるアルケノ SST 変動ー カリフォルニア沖堆積物DP Leg167 Hole 1017 の結果ー
○関宰・松本公平（北大低温研），石渡良志（都立大理），山本修一（創価大）
15. 北太平洋中緯度域におけるアルケノ生産の水深と季節変動
○山本正伸（地質調査所），奈良岡浩（都立大理），嶋本晶文・福原達雄（関西総合環境センター），田中裕一郎・西村昭（地質調査所）
16. 北太平洋・ベーリング海珪藻のステロール組成ー 特にノルコレステロールについてー
○安尾尚子・塩野正道・鈴木徳行・小泉格（北大理地球惑星）
17. 北海原油のステラン、トリテルパン組成
○奥井明彦・横山ゆかり・木佐森聖樹（石油公団 TRC）
18. 石油の移動を示すバイオマーカーに関する研究ー 北海油田での調査ー
○木佐森聖樹・安田浩也・奥井明彦（石油公団 TRC）
19. サハリン産原油及びコア試料の m/z 217 マスクロマトグラムに見られる帰属不明のピーク
○平林憲次・横山ゆかり（石油公団 TRC）
20. 鹿児島湾熱水性石油のバイオマーカー組成から見た熱水性固結堆積物の起源
山中寿朗（筑波大地球科学）
21. フィートル加熱実験によって生成する分岐炭化水素と新庄新第三系堆積岩中の分岐炭化水素との関連
○緒方いずみ・三田肇・下山晃（筑波大化学）
22. ニューゼーランド Waiotapu 地熱地帯に噴出する熱水石油の有機地化学的研究
○荻原成騎・濱田欣孝（東大理）

<7月27日(木)ポスター発表>

23. 日本産原油中のプリスタン・フィタンの炭素同位体比:熟成度指標としての 評価
○石渡良志(都立大理), 石渡真理子(東大工), 山田桂太(都立大理), 奈良岡浩(都立大理), 奥井明彦(石油公団 TRC), 木佐森聖樹(石油公団 TRC)
24. 原油中のプリスタンの起源について:ジヒドロフィートの加熱に伴う¹⁹C イソプレノイド炭化水素の生成挙動

- 石渡真理子(東大工), ○石渡良志(都立大理), 奥井明彦 (石油公団 TRC), 木佐森聖樹(石油公団 TRC)
25. 中国太湖柱状堆積物の安定同位体分析
○吉成亮・片瀬隆雄(日大生物資源)
 26. Carbon-isotopic composition of leaf-wax long-chain n-alkanes in pre-Holocene age bog intervals close to Lake Baikal: paleoclimatic implications.
○David Brincat (Tokyo Metropolitan Univ.), Hikaru Takahara (Kyoto Prefectural Univ.) and Ryoshi Ishiwatari (Tokyo Metropolitan Univ.)
 27. 更新統塩原層群(湖成層)の木ノ葉化石に残存している有機分子
○辻野匠(京大理), 山本正伸(地質調査所)
 28. 黄海・東シナ海表層堆積物中の脂肪族アルカンの安定炭素同位体組成
○鴨志田公洋・駒津美都紀・奈良岡浩・石渡良志(都立大理)
 29. レーザー照射によって取り出した有機分子の特徴について
○吉岡秀佳(石油公団 TRC)
 30. 植物— 土壌系における脂質成分の水素— 炭素同位体比2次元分布
○力石嘉人・奈良岡浩(都立大理)
 31. 水中植物中の有機物の炭素・水素安定同位体組成の関係
○内藤卓・力石嘉人・奈良岡浩(都立大理)

第2回(2000年度)有機地球化学賞(学術賞)受賞者決まる

わが国の有機地球化学の分野で顕著な学術業績をあげた会員に与えられる有機地球化学賞(学術賞)が昨年度制定された。第2回有機地球化学賞(学術賞)は、選考委員会で審議された後、7月27日に行われた運営委員会において、信州大学理学部福島和夫会員と石油資源開発株式会社技術研究所武田信従会員に与えられることが決まった。翌28日の総会において、石渡会長より同賞が授与された。

有機地球化学賞(学術賞) 福島和夫 会員

所属:信州大学理学部物質循環学科 教授

受賞題目:酸性湖を中心とした異なる環境下での堆積物中の鎖状脂質化合物の特徴に関する研究

我が国では火山活動が活発であり、それにより酸性を呈する湖沼が各地に存在する。このような湖沼では特色のある生物生態系が作りだされている。それが堆積物にどのように反映されているかを明らかにすることは有機地球化学における重要な研究課題である。福島和夫会員は青森県の恐山湖で一連の特異な分岐炭化水素を検出し、それらが炭素鎖の異なる長鎖の3-メチルアルカンであり、同時に検出した(ω -2)位にメチル基をもつ脂肪酸の anteiso 化合物類であることを見いだした。この anteiso 化合物類が湖水の酸性条件と密接に関連していることは、その後の田沢湖、屈斜路湖、猪苗代湖などの無機酸性湖の堆積物からも検出したことで明らかとなった。田沢湖では酸性河川水の導入時期とほぼ同時時に anteiso 化合物類が出現し、また、屈斜路湖ではその存在量が柱状堆積物中で周期的に増減し、堆積時の pH 変化を示していることを見いだした。さらに、福島会員は塩基性の温泉水中で繁殖する藻類に分枝炭化水素類が存在することも明らかにし、それらは酸性湖の堆積物のもとは明確に異なることも確認している。このように、酸性環境に極めて鋭敏な biomarker となる anteiso 化合物類を見だし、有機地球化学の研究に重要な進展をもたらした福島会員の研究は高く評価できるものである。現在はその起源生物としての酸性湖における バクテリア活動の研究を行っており、福島会員のますますの発展が期待できる。(下山 晃選考委員長)

有機地球化学賞(学術賞) 武田信従 会員

所属:石油資源開発株式会社技術研究所 分析グループ長

受賞題目:根源岩の圧密熱分解実験による石油生成に関する研究

堆積物の続成作用に伴う有機物熟成と石油生成についての研究は従来から有機地球化学の主要な研究テーマである。武田信従会員はこの有機物熟成と石油生成の解明を目的とした室内実験で、堆積物が埋没・沈降して行く際に被る温度上昇に加え、荷重圧の作用も取り入れた圧密熱分解装置を独自に開発した。これにより自然状態より近い反応条件下で根源岩からの石油生成についての特色ある実験を行った。根源岩としてグリーンリバー頁岩(特 型ケロジェン)、女川頁岩(監 型ケロジェン)、猿払炭(企 型ケロジェン)とタイプの異なるものを選び、それらの圧密熱分解による石油・ガス生成量を測定した。その結果、各型ケロジェンからの石油・ガス生成量と時期が異なり、生成量と組成はケロジェンの元素組成と関連すること、生成時期はケロジェンの化学構造の違いによることを見いだした。さらに、根源岩からの排出は石油・ガスの飽和率が上昇してから起きることを明らかにした。また、石油・ガスの生成量は特 型ケロジェンが最も多く、監 型、企 型の順で減少すること、時期的には、監 型が最も早く、(特)の熟成が進行してから起きることも見いだした。この知見は、これまでの石油・ガス生成に新しい要因を導入し大きく進展させたものであり、武田会員の研究は高く評価できる。現在は熱水条件下でのクラッキング反応の速度論に関する研究を展開しており、今後はその面も含めた研究に大きな期待がもてる。(下山 晃選考委員長)

運営委員会報告

2000年有機地球化学研究会運営委員会は、7月27日正午より、石渡良志会長、渡辺亨副会長、奥井明彦、坂田将、鈴木徳行、鈴木祐一郎、高田秀重、武田信従、奈良岡浩、福島和夫、村江達士、山本正伸各運営委員、下山晃学術賞受賞候補者選考委員長、金子信行氏(事務局)、山内敬明氏(オブザーバー)が出席して、東京都立大学国際交流会館2階セミナー室で開かれた。議事は以下のとおり。

1. 1999年度事業・会計報告、2000年度事業・会計中間報告及び今後の計画、2001年度事業・会計計画が審議された。
2. 有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考委員会より第2回同賞受賞者の推薦が行われ、承認された。
3. 研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会より今年度は受賞者を推薦しない旨報告があり、承認された。
4. ROGの年2号発行にむけて努力することが承認された。
5. ROGバックナンバーと田口教授退官記念論文集の定価を引き下げ販売することが承認された。
6. 村江達士会員(九州大学大学院理学研究院)から、次回(第19回)の有機地球化学シンポジウムを福岡市で開催したいとの立候補があり、協議の結果了承された。
7. 事務局を地質調査所から北海道大学大学院へ今後1年以内に移転することが了承された。

2000年度総会記事

表記の総会が2000年7月28日東京都立大学国際交流会館大会議室において、山内敬明会員を議長に選出して、開催された。総会では以下の事項が審議あるいは承認された。

- 1) 1999年度事業・会計報告(1999年1月1日～1999年12月31日)

事業報告

ニューズレターNo.29(1999.5.14), No.30(1999.10.13)発行

ROG Vol. 14 発行(1999.6)

ROG編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会(1999.7.27; 於弘前)

学術賞受賞候補者選考委員会(1999.7.27; 於弘前)

運営委員会(1999.7.27; 於弘前)

総会(1999.7.28; 於弘前)

第17回有機地球化学シンポジウム(1999.7.28～7.30; 於弘前)

会計報告

一般会計

収入の部(円)		支出の部(円)	
前年度繰越金	1,541,392	ROG Vol.13, 14 印刷費(振込手数料込)	683,990
会費(賛助)	140,000	郵送料	81,400
会費(個人)	382,000	雑費	30,375
ROG ページチャージ	65,000	次年度繰越金	1,338,317
ROG 売上げ	4,000		
利息	1,690		

計	2,134,082	計	2,134,082
---	-----------	---	-----------

田口基金

収入の部(円)		支出の部(円)	
前年度繰越金	2,189,893	賞状代	2,625
賞状入れ売上げ	630	次年度繰越金	2,188,539
利息	641		
計	2,191,164	計	2,191,164

監査報告

有機地球化学研究会および田口基金の1999年度会計報告を、出納簿、領収書、郵便料金受領証、その他提示された証明書類に基づいて審査した結果、それが正確に処理されていると認められたので、ここに報告いたします。

平成12年7月10日

監事 山本 修一 (印)

2)2000年度事業・会計中間報告および今後の計画

事業中間報告(2000年1月1日～2000年7月28日)

ニュースレターNo.31 発行(2000.5.15)

ROG編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会(2000.7.27; 於南大沢)

学術賞受賞候補者選考委員会(2000.7.27; 於南大沢)

運営委員会(2000.7.27; 於南大沢)

総会(2000.7.28; 於南大沢)

第18回有機地球化学シンポジウム(1999.7.27～7.28; 於南大沢)

今後の計画(2000年7月29日～2000年12月31日)

ROG Vol. 15 発行(2000.8)

ニュースレターNo.32 発行

会計中間報告(2000年1月1日～2000年7月15日)

収入の部(円)		支出の部(円)	
前年度繰越金	1,338,317	郵送料	10,680
会費(賛助)	140,000	雑費	2,037
会費(個人)	12,000		
利息	567		
計	1,490,884	計	12,717

今後の会計計画(2000年7月16日～2000年12月31日)

収入の部(円)		支出の部(円)	
残金	1,478,167	ROG Vol.15 印刷費(振込手数料込)	400,000
会費(個人)	160,000	郵送料	50,000
ROG ページチャージ	20,000	雑費	25,000
利息	200	次年度繰越金	1,183,367
計	1,658,367	計	1,658,367

3)2001年度事業・会計計画(2001年1月1日～2001年12月31日)

事業計画

ROG VOL. 16 発行

ROG編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会

学術賞受賞候補者選考委員会

運営委員会

第19回有機地球化学シンポジウム

総会

ニュースレターNo.33 発行

会計計画

収入の部(円)		支出の部(円)	
前年度繰越金	1,183,367	ROG Vol.16 印刷費(振込手数料込)	400,000
会費(賛助)	140,000	郵送料	60,000
会費(個人)	250,000	雑費	30,000
利息	1,000	次年度繰越金	1,084,367

計 1,574,367 計 1,574,367

○全会一致で承認された。

4) 会員現況

入会(1999.7.28-2000.7.28)敬称略

三村耕一(名古屋大学), 奥田知明(農工大), 岩野裕継(石油資源), 長尾誠也(日本原子力研究所), 木佐森聖樹(石油公団), 依田新(信州大学), 海保邦夫(東北大学)

退会(1999.7.28-2000.7.28)敬称略

沢田陽己, 浅川忠, 米田義昭, ダダ ウルド バラーラ

正会員数 128 名、賛助会員 3 社

5) 学術賞選考委員会報告

運営委員会において有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考委員会より第2回同賞受賞者の推薦が行われ、承認されたことが報告された。

6) 田口賞選考委員会報告

運営委員会において研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会より今年度は受賞者を推薦しない旨報告があり、承認されたことが報告された。

7) ROG編集委員会報告

ROG Vol.15 の出版が諸々の事情により遅れているが、8月中を目処に出版される予定であることが報告された。また年間2号発行体制確立にむけて発行頻度を高めるよう努力することが提案され、承認された。

さらに、ROG Vol.16 の発行時期に関する質問を受けて、ROG編集委員長から2000年12月印刷をめざし編集を努力したいとの提案がなされた。

8) ROGバックナンバーと田口一雄教授退官記念論文集の販売について

運営委員会よりROGバックナンバーと田口一雄教授退官記念論文集の在庫を減らす手段として価格を引き下げ販売することが提案され、承認された。

9) 次回シンポジウム開催地

2001年度の第19回有機地球化学シンポジウムを福岡市志賀島で開催することが承認された。

10) 事務局移転

事務局を地質調査所から北海道大学大学院理学研究科へ今後1年以内に移転することが提案され、承認された。

11) 第2回学術賞が信州大学理学部福島和夫会員と石油資源開発(株)技術研究所武田信従会員に授与された。

ROG Vol.16 への投稿のお知らせ

Researches in Organic Geochemistry 編集委員会

本研究会の機関誌「Researches in Organic Geochemistry」(ROG)は、これまでおよそ年1号のペースで発行を続けてきましたが、昨年度からは年間を通して編集作業を行っています。これは、受理から出版までの時間をできるだけ短縮するためにとられている措置で、定期発行月(5-6月)前であっても受理原稿数が確保された時点で発行することを意味しています。編集委員会では、この方針のもとでいつでも原稿を受付ける体制をとり、当面年間2号発行を目標としていました。しかし昨年は原稿がそろわず、Vol.15は、この8月に印刷・出版されます。今年の南大沢シンポジウム(於:都立大)時に開かれた運営委員会(7/27)では、Vol.16に対しても、できる限り早く発行する方針が再確認されました。また総会の議論の中では、早目に1報でも投稿原稿があれば、12月-1月発行が可能となるように編集委員会・運営委員会として、原稿を依頼・督促する努力が必要である、などの意見が出されました。そこで12月-1月発行から逆算して、当面の原稿締切を9月末日に設定したいと思っております。Vol.16は、第18回有機地球化学シンポジウム(2000年南大沢シンポジウム)で発表された論文が中心になるかと思いますが、シンポジウム

で発表されていない論文であっても、有機地球化学関連のものであれば歓迎いたします。特に大学院生、若手研究者の論文掲載を重視しておりますので、投稿規定を参照の上、積極的にご投稿、もしくは投稿をお勧め下さるようお願いいたします。本研究会と ROG のいっそうの発展のため、多数の原稿が集まることを希望しております。ご協力よろしく申し上げます。

記

Researches in Organic Geochemistry Vol.16

1. 発行予定:2001年1月
2. 投稿締切:2000年9月28日(金)
3. ページチャージは6ページを超えた分につき、投稿者が刷り上がり1ページにつき5000円を負担する。
4. 投稿先:〒390-8621 松本市旭3-1-1 信州大学理学部物質循環学科 福島和夫 宛
5. 問い合わせ:電話 0263-37-2502;ファックス 0263-37-2560
E-mail kfukush@gipac.shinshu-u.ac.jp (なるべくファックスか、E-mail でお願ひします)
または最寄りの編集委員まで

(北大)河村公隆:kawamura@soya.lowtem.hokudai.ac.jp

(北大)鈴木徳行:suzu@cosmos.sci.hokudai.ac.jp

(東京農工大)高田秀重:shige@cc.tuat.ac.jp

(弘前大)氏家良博:ujie@cc.hirosaki-u.ac.jp

有機地球化学賞(学術賞)2001年度受賞候補者推薦の募集

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考委員会
委員長 下山 晃

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を受け付けます。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格:有機地球化学分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

推薦の方法:本会会員による推薦(自薦他薦を問いません)。

推薦書類:下記の項目についてA4サイズ用紙に任意の形式で記入。

- 1) 候補者の履歴書(学歴、大学卒から;職歴;その他)
- 2) 推薦の対象となる研究題目及びその推薦理由
- 3) 研究業績目録(推薦の対象となる主要な論文10編)
- 4) 推薦者氏名、連絡先

締切日:2001年5月31日(木)(当日消印有効)

提出及び問い合わせ先:〒305-8571 つくば市天王台1-1-1 筑波大学 化学系

下山 晃 電話&Fax:0298-53-6510, e-mail:ashimoya@chem.tsukuba.ac.jp

研究奨励賞(田口賞)2001年度受賞候補者推薦の募集

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会
委員長 福島 和夫

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照のうえ適切と考えられる受賞候補者を自薦他薦を問わずご推薦下さい。

記

候補者の資格:生年月日が1967年4月2日以降で、有機地球化学、石油地質学、堆積学の分野で優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。

募集の方法:本会会員の推薦による。

推薦の方法:下記の書類をA4サイズ用紙に任意の形式で記入する。

- 1) 推薦書(自薦の場合は自分で)および研究題目
- 2) 履歴書
- 3) 研究業績目録
- 4) 締切日:2001年5月31日(木)(当日消印有効)
- 5) 提出先:〒390-8621 松本市旭3-1-1

有機地球化学研究会の歴史 (3)

— シンポジウム開催とOG —

札幌学院大学 秋山 雅彦

有機地球化学研究会の Official Journal として位置づけられている Researches in Organic Geochemistry は、すでに述べたように 1975 年度に実施された田口総研の報告書を本研究会の学会誌創刊号として出版した際に、田口一雄によって命名されたものである。その後、ROG の略称で呼ばれることとなっている。今回は先ず、この ROG の出版状況をまとめてみた。

Vol. 10 までは、シンポジウムでの発表論文を中心に開催責任者が編集するという方式をとっていた。しかし、Vol. 11 からは研究会内に編集委員会が構成されるとともに、レフェリー制度も確立されて名実ともに学会誌としての体裁が整えられることになった。

Vol.	発行年月日	ROG 編集担当	論文数	総ページ	印刷所	Remarks
1	1976/3/1	田口 一雄	22	65	東光印刷(株)	田口総研 B「有機物の続成作用的变化」特集
2	1978/9	田口 一雄	14	100		第3回OGシンポジウム(川渡)
3	1982/3/1	秋山 雅彦	18	100	北大印刷	第5回OGシンポジウム(大滝)
4	1984/7/31	半田 暢彦	15	86	名大生協印刷部	第6回OGシンポジウム(中津川)
5	1985/9/30	関口 嘉一	21	93	(株)大和印刷	第7回OGシンポジウム(鳥山)
6	1988/6/25	島田 郎	23	104	(有)高浜印刷所	第8回OGシンポジウム(島根)
7	1990/4/25	下山 晃	15	71	(株)イセブ	第9回OGシンポジウム(筑波)
8	1992/9/25	浅川 忠	18	92	(有)高浜印刷所	第10回OGシンポジウム(湯沢) 講演要旨9
9	1994/7/25	相原 安津夫	13	86	電算印刷(株)	第11回OGシンポジウム(大牟田) 講演要旨15
10	1995/7/25	河村 公隆 石渡 良志	6	60	電算印刷(株)	第12回OGシンポジウム(南大沢) 講演要旨17
11	1996/5/30	下山 晃	11	75	電算印刷(株)	田口一雄先生の追悼文
12	1997/5/30	下山 晃	9	71	電算印刷(株)	
13	1998/12/25	福島 和夫	7	49	電算印刷(株)	
14	1999/6/25	福島 和夫	9	61	電算印刷(株)	田口賞受賞者の2論文を含む

1972 年に有機地球化学談話会として発足した本研究会は、1985 年に有機地球化学研究会への名称変更が行われるとともに、正式な会則がつくられ、田口一雄会長を始めとした役員が構成された。このことによって、学会としての体裁が整った、ということができよう。次に、1985 年以降の本研究会の役員構成とともに事務局の所在もあわせて示す。

年度	会長	副会長	運営委員	監事	ROG 編集委員	事務局
1985	田口一雄		相原安津夫, 秋山雅彦, 石渡良志, 市原優子, 工藤修治, 佐藤俊二, 島田 郎, 下山晃, 半田暢彦, 藤田嘉彦, 米谷宏	浅川 忠		東京都立大学理学部
1986	田口一雄		相原安津夫, 秋山雅彦, 石渡良	浅川 忠		東京都立大学

			志, 市原優子, 工藤修治, 佐藤俊二, 島田 郎, 下山晃, 半田暢彦, 藤田嘉彦, 米谷宏			理学部
1987	田口一雄		相原安津夫, 秋山雅彦, 石渡良志, 市原優子, 工藤修治, 佐藤俊二, 島田 郎, 下山晃, 半田暢彦, 藤田嘉彦, 米谷宏	浅川 忠		東京都立大学理学部
1988	田口一雄		相原安津夫, 秋山雅彦, 石渡良志, 市原優子, 佐藤俊二, 島田 郎, 下山晃, 半田暢彦, 藤田嘉彦, 米谷宏	重川 守		東京都立大学理学部
1989	田口一雄		相原安津夫, 秋山雅彦, 石渡良志, 市原優子, 佐藤俊二, 島田 郎, 下山晃, 半田暢彦, 藤田嘉彦, 米谷宏	重川 守		東京都立大学理学部
1990	田口一雄	浅川 忠	相原安津夫, 秋山雅彦, 石渡良志, 佐藤俊二, 寺島美南子, 島田 郎, 重川守, 下山晃, 関口嘉一, 半田暢彦	平井明夫		東京都立大学理学部
1991	田口一雄	浅川 忠	相原安津夫, 秋山雅彦, 石渡良志, 佐藤俊二, 寺島美南子, 島田 郎, 重川守, 下山晃, 関口嘉一, 半田暢彦	平井明夫		石油資源開発(株)技術研究所
1992	相原安津夫	浅川 忠	相原安津夫, 秋山雅彦, 石渡良志, 佐藤俊二, 寺島美南子, 島田 郎, 重川守, 下山晃, 関口嘉一, 半田暢彦	平井明夫		石油資源開発(株)技術研究所
1993	相原安津夫	浅川 忠	石渡良志, 氏家良博, 重川守, 坂田将, 下山晃, 鈴木徳行, 関口嘉一, 寺島美南子, 半田暢彦, 福島和夫, 町原勉, 村江達士	平井明夫		石油資源開発(株)技術研究所
1994	相原安津夫	浅川 忠	石渡良志, 氏家良博, 重川守, 坂田将, 下山晃, 鈴木徳行, 関口嘉一, 寺島美南子, 半田暢彦, 福島和夫, 町原勉, 村江達士	平井明夫		石油資源開発(株)技術研究所
1995	秋山雅彦	浅川 忠	石渡良志, 氏家良博, 重川守, 坂田将, 下山晃, 鈴木徳行, 関口嘉一, 寺島美南子, 半田暢彦, 福島和夫, 町原勉, 村江達士	平井明夫		石油資源開発(株)技術研究所
1996	秋山雅彦	浅川 忠	石渡良志, 氏家良博, 重川守, 坂田将, 下山晃, 鈴木徳行, 関口嘉一, 寺島美南子, 中塚武, 福島和夫, 町原勉, 村江達士	平井明夫	下山 晃(長) 鈴木徳行, 河村公隆, 氏家良博, 福島和夫	工業技術院地質調査所
1997	秋山雅彦	浅川 忠	石渡良志, 氏家良博, 重川守, 坂田将, 下山晃, 鈴木徳行, 関口嘉一, 寺島美南子, 中塚武, 福島和夫, 村江達士	平井明夫	下山 晃(長) 氏家良博, 福島和夫, 河村公隆, 鈴木徳行	工業技術院地質調査所
1998	下山 晃	渡辺 亨	氏家良博, 奥井明彦, 河村公隆,	山本修一	福島和夫	工業技術院地

			坂田将, 鈴木徳行, 鈴木祐一郎, 高田秀重, 武田信従, 田上英一朗, 奈良岡浩, 平井明夫, 福島和夫, 村江達士		(長) 平井明夫, 河村公隆, 鈴木徳行, 高田秀重	質調査所
1999	下山 晃	渡辺 亨	氏家良博, 奥井明彦, 河村公隆, 坂田将, 鈴木徳行, 鈴木祐一郎, 高田秀重, 武田信従, 田上英一朗, 奈良岡浩, 平井明夫, 福島和夫, 村江達士	山本修一	福島和夫 (長) 氏家良博, 河村公隆, 鈴木徳行, 高田秀重	工業技術院地質調査所
2000	石渡良志	渡辺 亨	氏家良博, 奥井明彦, 河村公隆, 鈴木徳行, 鈴木祐一郎, 高田秀重, 武田信従, 田上英一朗, 奈良岡浩, 平井明夫, 福島和夫, 村江達士, 山本正伸	山本修一	福島和夫 (長) 氏家良博, 河村公隆, 鈴木徳行, 高田秀重	工業技術院地質調査所
2001	石渡良志	渡辺亨	氏家良博, 奥井明彦, 河村公隆, 鈴木徳行, 鈴木祐一郎, 高田秀重, 武田信従, 田上英一朗, 奈良岡浩, 平井明夫, 福島和夫, 村江達士, 山本正伸	山本修一	福島和夫 (長) 氏家良博, 河村公隆, 鈴木徳行, 高田秀重	工業技術院地質調査所

今回の資料は事務局の資料を照らし合わせて作成したが、不完全な部分や誤りもあるかと思われる。ご指摘いただいた上で、完全なものへと修正していきたいと考えている。ご意見をいただければ幸いである。

事務局よりお知らせ

E-mail アドレスをお持ちの方には将来的に電子メールによるニュースレターの配布も検討しており、可能な限りE-mail アドレスを猪狩まで 9/30 までにお知らせいただきたく願います。また住所を変更された方は猪狩までご連絡ください。

連絡先: 猪狩俊一郎 〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3 地質調査所地殻化学部 igari@gsj.go.jp

第二回(2000年度)有機地球化学賞(学術賞)福島和夫会員と武田信従会員に授与

発行責任者, 有機地球化学研究会会長 石渡 良志

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西3-16-11

電話番号 03-5930-7634

有機地球化学研究会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所地殻化学部内

電話番号 0298-61-3720 FAX 0298-61-3666

郵便口座 00110-7-76406

(加入者名 有機地球化学研会)

銀行口座 常陽銀行研究学園都市支店

普通口座 1379974 (名義人 有機地球化学研究会)

(左より武田会員, 石渡会長, 福島会員)

有機地球化学研究会ニュースレターはホームページでもご覧になれます.

アドレス:<http://www.gsj.go.jp/dFR/rog.html>